

# 災害レポート

川合静代評議員<sup>1)</sup> 高橋 明医師<sup>2)</sup>より

1) Aromatherapy School & Salon Andante

2) 医療法人友志会石橋総合病院  
リハビリテーション科・脳神経外科

**Key Words** : 豪雨災害, 支援活動, アロマセラピー

## 平成 30 年 7 月豪雨災害への日本アロマセラピー学会の支援活動報告

### 【はじめに】

2020 年 8 月の活動をもって、中国・四国地方会を中心に立ち上げた平成 30 年(2018 年)7 月豪雨災害支援活動実行員会の 2 年間の活動「香りとタッチの癒しのサロン」を終了した。2018 年 7 月から 12 月末日までの活動については、学術誌に論文を掲載した(川合静代, 高橋明: 平成 30 年 7 月豪雨災害支援活動 — 支援活動立ち上げから現在までの活動報告と今後の方針と課題, Journal of Japan Society of Aromatherapy Vol.18, p52-58, 2019)。中間報告は、2019 年 11 月の第 22 回学術総会のシンポジウムにて発表した。2020 年 2 月から 8 月までは、当学会の活動メンバーが主に県外から集まることを考慮し、新型コロナウイルスによる感染拡大防止の観点から現地での活動は見合わせ、布マスクの作成を通して、「心に寄り添うこと」をモットーに活動を継続した。実行委員長(現地調整担当兼任)として、2 年間の活動を総括して最終報告致す。

### 【活動内容】

発災 3 日目に実行委員会を立ち上げ、災害人道医療支援会(HUMA)・アロマセラピストチーム岡山と連携し、甚大な被害を受けた岡山県倉敷市真備町で活動を 2 年間継続した。活動場所は、倉敷市災害ボランティアセンター、職員や事業所も被災しながらも地域で現在も支援活動を継続する「そーる訪問看護ステーション(エンリッチ・カフェ)」、「川辺復興プロジェクトあるく」、小規模多機能ホーム「ぶどうの家真備」である。内容は、2020 年 1 月の活動までは傾聴を基本とし、ハンドトリートメント、ハーブティーを囲んでの談話を中心とした。HUMA との連携により適切な災害後の健康支援を行うことが出来たことは、活動する上で迷いが軽減され非常に心強かった。活動資金については、活動初期に学会から精油と植物油などの必要物品が支給され、以降は実行委員会が獲得した助成金「ももたろう基金」が主な資金となった。交通費は学会から 1 人あたり上限 4,500 円が支給されたが、新幹線で集まるメンバーが多かったことから交通費の自己負担額が大きく、継続するにあたり問題と考えて交通費が認められる助成金を探し、「ユニバーサル基金」を獲得した。2020 年 2 月から 8 月のコロナ自粛渦下での活動は、試行錯誤しながらも被災地サロンのニーズに寄り添った布マスクを実行委員で始めたところ、実行委員会の FB ページを通して学会員の方々はじめ全国から支援団体の方々がマスク作りに参加してくださり、上記のサロンに送ることが出来た。

### 【活動を通しての感想】

災害医療が専門の学会ではないが、参加者各位の臨床で培った「寄り添うケア」の知識・技術・センスが発揮され、復興を祈る想いが心地よい香りと優しいタッチのケアを介して被災地の方々の方に触れたと確信する。また、2 年間を通して実感したことは、日本アロマセラピー学会で行う被災地支援においては「何が出来たか」が最も重要な問題ではなく、「継続して心に寄り添う姿勢」を持ち続けることではないかということである。このことは、患者

に寄り添うことを専門とし、心に優しく触れていくアロマセラピーを学ぶ私たちの得意とする分野ではないかと思う。筆者自身も、多少ではあるが、被災した状況で通常の仕事を持ちながら、心に深い傷を負った状態での支援活動の日々であった。学会員の皆様からの励ましがどれほど励みになったか筆舌に尽くし難い。ただ、毎月の活動を調整し継続することが精一杯で、学会 HP への活動報告が出来ていなかったことは反省すべきことで、周囲に支援を上手く求めることも被災地支援活動には必要ではないかと実感している。

### 【おわりに】

最後に、被災地支援活動にご協力して下さった多くの方々に感謝するとともに、昨今の全国的な自然災害に遭われた方々の復興と新型コロナの対応に追われる医療従事者の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

\*\*\*\*\*

### 【理事長よりのコメント】

(本レポートは第 23 回学術総会 (2020 東京大会) に合わせて寄稿されました)

激甚災害が増える現代、被災地の皆様のもとに精油を片手に出向かれ「寄り添うケア」の知識・技術・センスを以て、被災された方々の心に復興を祈る灯を継続的に焚き続けられたことに、心より敬意を表します。

この知識と技術とセンスこそ、我々の学会で培われるものであると思います。日本アロマセラピー学会は、正しい知識を科学として学び、それをアウトソーシングするスキルを磨く場です。

可能な限り災害からは逃れたいものです。しかし、もしこれからも激甚災害に襲われたとき、日本アロマセラピー学会は、また被災地でアウトソーシングし続けられるよう、関係委員会を中心に、高橋評議員が掲げた“寄り添うケアの知識・技術・センス”を培っていかねなければならないと思います。 感謝